

## 労災疾病等医学研究普及サイトの御案内 「早期復職」について

現在、がんは日本人の死因のトップであり、国民の 2～3 人に 1 人は生涯の間に一度はがんと診断されます。また、がんと診断された方の 3 人に 1 人は就労可能な年齢にあたり、社会の高齢化が進む中、がんと診断された後も仕事を続ける労働者は、今後増えていくことが予想されます。

がん患者さんが復職するうえで最も重要なことは、体力の維持・増進とされており、そのためには「運動療法」と「食事療法」が効果的であると考えられています。

平成 30 年 7 月から令和 5 年 3 月まで実施した「消化器癌（胃癌、大腸癌）手術患者における蛋白質の補充と運動療法が骨格筋の増加に及ぼす影響に関する研究」では、がん治療で手術を受ける患者さんを対象として、持久力や筋力を強化する「運動療法」と、最適な蛋白質を摂取する「食事療法」を手術前から一定期間実施し、退院後 9 週目まで血液検査や体力測定等を行うとともに、復職の状況も調査しました。

令和 5 年 6 月までに登録された、消化器癌手術患者における「運動療法」に蛋白質補充を付加する試験群と対照群の計 50 症例について、統計解析を実施しました。

本研究では統計学的有意差を示すには至りませんでした。術後の運動療法及び栄養摂取の介入により、骨格筋量、筋力および歩行能力は、退院後 9 週目には術前値と比較して同等以上に回復・向上しました。これらの介入が術後の ADL（日常生活動作）回復を早め、早期復職を含む社会復帰につながる可能性を前向き試験において示せたことは非常に意義深いものと考えています。

本研究の詳細については、「労災疾病等医学研究普及サイト」をご覧ください。

→ <https://www.research.johas.go.jp/souki2018/index.html>